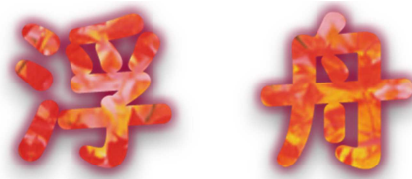




学校だより



u k i f u n e

令和6年10月3日(木)
第22号

〒979-2157
南相馬市小高区吉名字中坪1



TEL 0244-44-2023

後期（秋学期）が始まりました

本日から後期（秋学期）が始まりました。お子さんにとって初めての期分休みはどのように過ごしていたでしょうか。2日間という短い間でしたが、南相馬市立小高中学校も心もリフレッシュした新たなスタートとなるよう、学校とご家庭の連携を一層進め、取り組んでまいりたいと思います。以下、本日の始業式式辞の一部となります。どうぞ一読ください。

さて、2年前の卒業式でこんな話をしました。3年生は2回目ですが、もう一度聞いて思い出してほしいと思います。ある本に、なぜ私たち人類が生き延びることができたのかについて書かれていました。具体的には最終的にはなぜネアンデルタール人ではなく、人類の祖先であるホモ・サピエンスが生き残ったかを独自に解説したものです。優劣の関係で考えれば脳の大きさに違いがあったとまずは考えるはずです。皆さんはどちらの脳が大きかったと思いますか。3年生は覚えていますね。人類の祖先となったホモ・サピエンスではなく、ネアンデルタール人の脳の方が大きかったのです。また、ホモ・サピエンスはネアンデルタール人より体力的にも劣るなど、動物学的にも弱い者たちだったそうです。

では、なぜ生き残ることができたのでしょうか。実は、この一人では何もできない弱い種族であったからこそ生き残ることができた大きな理由でした。それは、人類の祖先たちは弱き者だったからこそ、「協力」する能力が備わったというのです。つまり、祖先は動物を狩ることが下手なことで、どうしても他者と協力して獲物を捕らえることが必要でした。自分だけが生き残ることを何よりも優先しようとするのではなく他者との協力関係を築くことで、自分たちがともに生き残ることを優先できる能力こそ人類の祖先が獲得した最大の力だったと本は結論づけています。私たちは、他者と協力しようとするからこそ人であり、人であることは周りに協力してくれる人に囲まれていることであると、この本を通して考えることができたと話しました。

先日の終業式で、人の弱さ、心の弱さを思いやる大切さについて話しました。ですが、人は本来弱き者たちなのです。遺伝子に刻み込まれた本能ともいえるべき協力する力を全身で感じ、誰とでも協力関係を結ぶことができる人になってほしいと思います。今日から始まる後期（秋学期）では、たくさんの人たちと協力する場面にも溢れています。協力するために必要な話すこと、コミュニケーションをとることを恐れず、どんどん他者と関わり続けるそんな後期（秋学期）となることを期待しています。

【前期の反省と後期の目標発表】

